

ぎふ農研NEWS

一般社団法人ぎふクリーン農業研究センター

センターは、今年の8月で20周年を迎えました。今回は20周年特別号として、理事長インタビュー、これまでの歩み等をお届けいたします。

理事長インタビュー

理事長 平工 孝義

▶ これからも 安全・安心な岐阜県産農産物の供給を支える ▶▶

—今年8月で貴センターが20周年を迎えられました。そもそも設立のきっかけは

輸入食品残留農薬基準の違反や無登録農薬の使用、それと輸入冷凍食品への過量な農薬の混入ですね。そういう事件があって、当時は消費者が農薬による健康被害に大きな不安感を持つようになりました。

そういう中で、安全・安心を基本とする農産物を求める消費者の期待に対応すべく、科学的な検査や調査、啓発等を行う機関が必要ということで、県下のJAグループ、岐阜大学、岐阜県のいわゆる産・学・官の連携組織として当センターが設立されたわけです。



—これまでの成果、実績は

最近10年間でみると、年間で平均850件ほどの検査を実施しておりまして、設立後から令和5年度までの検査件数は累計で約16,000件にもなります。

最新の検査機器の導入や検査方法の改善により、正確かつ迅速な分析を心がけていますし、分析できる作物数や農薬成分数も大幅に増えました。

こうした取り組みにより残留農薬検査が出荷前に行われ、消費者の皆さんに岐阜県産の農産物を安心して食べていただける仕組みが出来上がったのではないかと思います。

—残留農薬検査の他にも各種検査をしておられると聞いておりますが

他には、玄米・麦類のかび毒分析、米の食味分析、土壌分析などを行っています。

特に近年は肥料の高騰対策として、土壌の養分過不足に応じた適正な施肥を推進するということで、そのための土壌分析の件数が増えています。

—今後に向けてセンターはどのような役割を担っていくのですか

県下JAグループと密接に連携しながら、これまで培ってきた検査・分析の技術力を生かして、引き続き安全・安心な農産物の供給に寄与できるよう、一層努力していきたいと思っています。

そういう意味で、岐阜県が推進するぎふ清流GAPの評価において、当センターを活用いただけるよう、PRしてまいります。

野菜の花

今回はキク科の野菜の花を掲載しました。

上段はサラダ菜の花です。サラダ菜は結球レタスの一種ですが、結球がゆるく、葉がバターを塗ったように光沢があることから「バターヘッドレタス」とも呼ばれています。春に小さな黄色い花がたくさん咲きます。

下段はシュンギクの花です。鍋物に使われる冬の代表的な野菜で、春に菊に似た黄色い花を咲かせることから「春菊」と名付けられました。食用にしているのは東アジアだけで、ヨーロッパでは観賞用として使われているようです。

撮影：平工理事長



20年の歩み～主な出来事～

2004(平成16)年度

- ・8月 センター設立(登記)
- ・9月 施設完成、竣工式
- ・10月 本格始動



2006(平成18)年度

- ・LC-MS/MS*1初導入



2007(平成19)年度

- ・ホームページ開設
- ・GC-MS/MS*2初導入
- ・計量証明事業者登録(第22号)



2008(平成20)年度

- ・「一斉分析標準250」「一斉分析簡易80」コース創設
- ・土壌分析装置更新(SFP-3)



2009(平成21)年度

- ・地域固有農産物の機能性研究の成果が新聞に掲載

2010(平成22)年度

- ・ぎふ特別栽培米に関する第三者評価業務を開始
- ・「一斉分析簡易170」コース改設

2011(平成23)年度

- ・米粒食味計・穀粒判別器更新



2012(平成24)年度

- ・LC-MS/MS更新



2013(平成25)年度

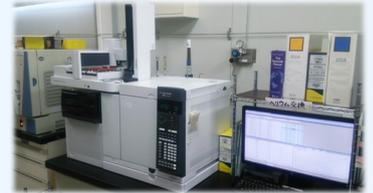
- ・「一般社団法人」に移行

2014(平成26)年度

- ・土壌中の肥料成分分析を計量証明事業登録
- ・「10年の歩み」記念誌発刊

2015(平成27)年度

- ・GC-MS/MS更新



2017(平成29)年度

- ・蒸留水製造装置更新

2019(令和元)年度

- ・ISO/IEC17025認定初取得
- ・野菜予冷庫更新
- ・日本農薬学会学術講演会で口頭発表(2題)

2020(令和2)年度

- ・「ぎふ農研NEWS」創刊号発刊



- ・日本農薬学会誌に論文投稿

2021(令和3)年度

- ・LC-MS/MS更新



2022(令和4)年度

- ・土壌分析装置更新(SFP-4i)



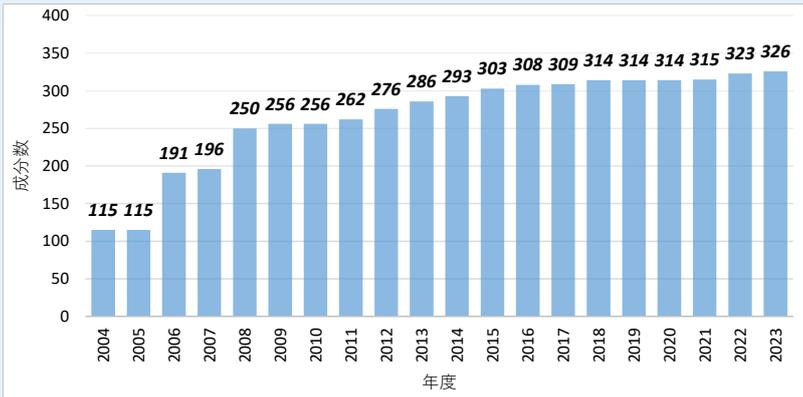
2023(令和5)年度

- ・蒸留水製造装置更新

*1 LC-MS/MS : 液体クロマトグラフ-質量分析計

*2 GC-MS/MS : ガスクロマトグラフ-質量分析計

20年の歩み～分析関連項目の推移～

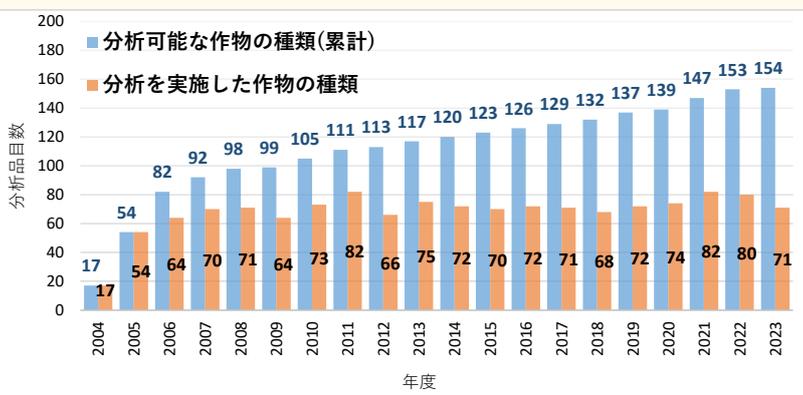


① 残留農薬(一斉分析) - 分析成分数の推移

一斉分析では、分析成分の充実も1つの大きな目標として取り組んで参りました。

115成分から始まり、2008年度にはLC-MS/MSも本格的に稼働し、現在の「[一斉分析標準250](#)」の由来となる250成分の分析が可能となりました。

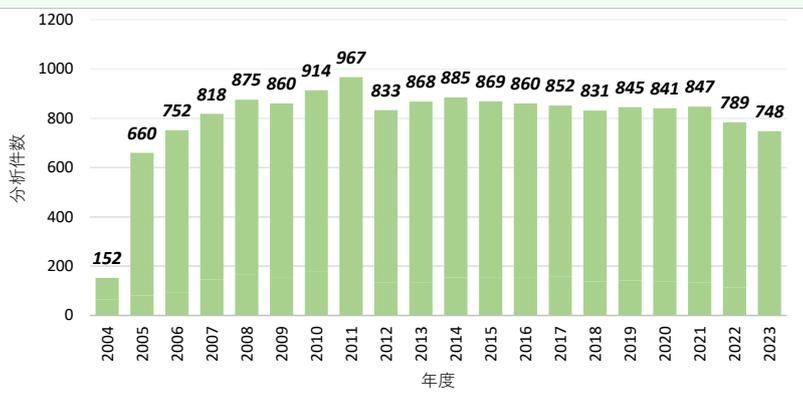
その後も成分数を増やし、2023年度は初期の3倍近い326成分の分析を実施しました。



② 残留農薬(一斉分析) - 分析可能な作物種類数の推移

岐阜県は「日本の縮図」ともいえる変化に富んだ自然条件のもと、生産される農産物の種類は大変多く、それに合わせ、出来るだけ多くの作物を分析できるように取り組んで参りました。

年間70-80種類の作物を分析していますが、毎年のように新たな作物の依頼があり、現在では154種類の農産物の分析が可能です。



③ 残留農薬(一斉分析) - 分析件数の推移

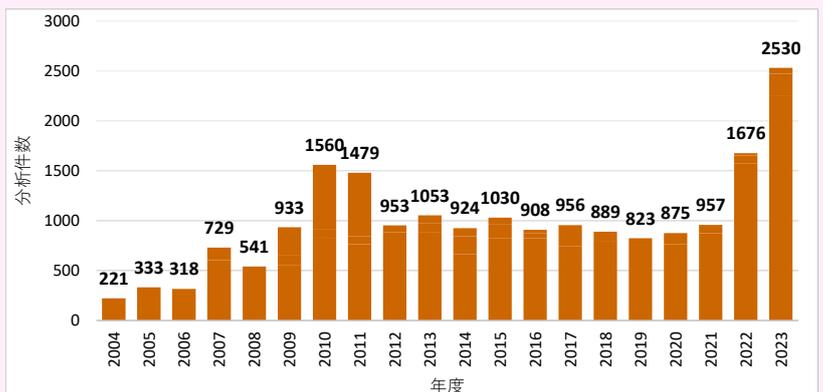
一斉分析の分析件数は、2011年度が最も多く、967件のご依頼がありました。その後は850件前後で推移しましたが、2022年度以降はやや減少傾向となっています。

近年は関連した大きな問題は生じていませんが、安全・安心を担保する残留農薬分析の重要性は、依然変わるものではありません。

土壌中の肥料成分分析は、効果的な施肥による肥料の節約、環境への負荷の低減へつながる有効な取り組みです。

特に2022年度以降は肥料高騰対策、みどりの食料システム戦略と相まって非常に多くのご依頼をいただいております。

2025年度まではこの状況が続く見込みですので、早めのご依頼にご協力ください。



④ 肥料成分分析(土壌分析) - 分析件数の推移



《遠心分離機を 更新しました》

20年とまではいかないまでも2006年から17年間使用し続けていた遠心分離機を更新しました。17年間故障が一度も無かったのですが、これは分析機器として非常に珍しいです。

古い装置は新しい方が故障した際のサブ機として活用する予定です。2台体制となり、急な故障が生じてでも分析が続けられる体制となりました。



20周年を迎えて ～雑感を綴る～

主席研究員 加藤 玄俊

「高度な分析機器を使いたい！」

そんな、純粋とは言えない動機から、運よく立ち上がったばかりのぎふクリーン農業研究センターの職員になることができ、もう20年が過ぎました。そして気づけば、本格始動からずっとセンターにいるのは私のみとなっていました。

－目に見えないものを分析する－

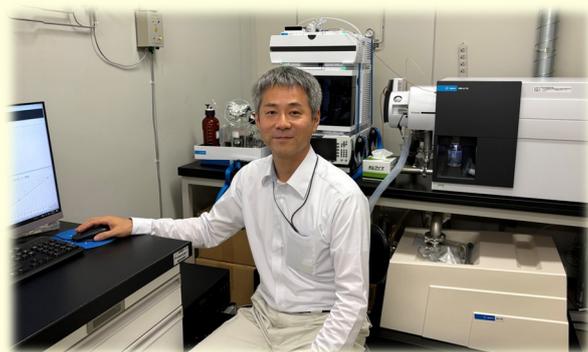
念願叶い高度な分析機器を使用できることになったのですが、特に面白いと感じるのは、目に見えないものを分析している事です。私たちは、主に質量分析計を使っていますが、目に見えないものの質量の違いを利用して目の前の機械が測定している。その不思議な感覚の面白さは20年経った今でも変わらず、言葉は適切では無いかもしれませんが、楽しく仕事に取り組みめています。時には目で見えたと楽なのにも思いますが、..

－安全の証明書？－

この20年間で様々な問い合わせがありました。比較的初期に受けた問い合わせで印象に残っているものがあります。それは農薬が検出されなかった試料について「安全だという証明書を出してほしい」との要望でした。残念ながらそれは不可能です。自然界には農薬以外にも多種の物質が存在し、それらすべてについて安全な量であることを調べる必要があるからです。私たちが分析しているのは「特定の農薬」のみで、かつ「持ち込んでいただいた試料」に限られています。従って、私たちは分析の意義を出来るだけ高めるために、より重要な農薬を分析するように努め、持ち込んでいただく試料は、その農作物の指標となるようにお願いしています。

－出荷前自主検査の目的って？－

ところで皆さんは生産者さんが出荷前に実施する「残留農薬分析」(出荷前自主検査)の目的について考えたことはおありでしょうか。この職に就いた頃は、この出荷前自主検査は「農薬の危険から消費者を守るため」という印象がありました。そんな印象は、入社して仕事を覚えた頃にはガラッと変わります。この自主検査は、農作物中の農薬が基準濃度以下であることを証明し、「購入していただける消費者の皆さんに安心を提供する」ことが最も大きな目的なのです。私たちの仕事が、生産者さんと消費者さんの安全・安心の架け橋となれるよう、今後も取り組んで参ります。



編集後記

おかげさまでこの度20周年を迎える事ができ、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。節目を迎え、センターも過渡期を迎えている…今号を作成しながらそんな風を感じました。気持ちを新たに邁進していく所存です。

いつも「ぎふ農研NEWS」をお読みいただきありがとうございます。今後も皆様に楽しく読んでいただけるような情報誌を作っていきたいと思っております。(S.I)



一般社団法人

ぎふクリーン農業研究センター

〒500-8367

岐阜市宇佐南4丁目11番5号

TEL : 058-276-5072 FAX : 058-276-5074

URL : <https://www.gifu-cal.or.jp>

↑過去の記事は当センターのホームページでご覧になれます